

-地域と大学を結ぶ- りえぞん No.19

編集発行：武庫川女子大学 社会連携推進センター

目次

日本語日本文学科の学生が各国若手外交官・公務員との日本語交流会を実施	【 日本語日本文学科 】 …………… 1P
「京都企業と学生との交流会」を開催	【 歴史文化学科 】 …………… 1P
福井県英語教育視察に本学科の教員と学生・大学院生が参加	【 英語グローバル学科 】 …………… 2P
丹波市内の小学校で地域や保育士の現場を繋ぐアートプロジェクト実施	【 教育学科 】 …………… 3P
株式会社ロック・フィールド様での実習心理学の学びをビジネスに活かす	【 心理学科 】 …………… 3P
西宮スポーツイベントにて防災お菓子ポシェットを実施	【 社会福祉学科 】 …………… 4P
豊永ゼミ・村越ゼミとダンス部が「第13回全日本小中学生ダンスコンクール」にボランティアで参加し、パフォーマンスを披露	【 健康・スポーツ科学科 】 …………… 4P
工藤ゼミ3年生チームが「スポーツ政策学生会議2025」で特別賞を受賞	【 スポーツマネジメント学科 】 …………… 5P
「こども店長おもてなし市」を企画・運営。多田准教授ゼミが地域連携イベントを実施	【 生活環境学科 】 …………… 5P
藤本ゼミが「未来を創るビジネスプランコンテスト2025」で優秀賞を受賞	【 社会情報学科 】 …………… 6P
食物栄養学科の一年生が西宮市の廃棄物処理場・下水処理場で見学実習	【 食物栄養学科 】 …………… 6P
本学、関西スーパー、明治の産学連携コラボ ～学生考案レシピの試食配布で地域貢献と実践力強化～	【 食創造科学科 】 …………… 7P
建築学部の学生・院生らが甲子園会館をライトアップし、約1,300人が来場	【 建築学科 】 …………… 7P
景観建築学科の学生有志が、花と緑に包まれた芦屋のまちづくりを伝える展示イベントをサポート	【 景観建築学科 】 …………… 8P
公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション様よりピアノをご寄贈いただいた	【 音楽学部 】 …………… 9P

「寺CARE2025 OMOIYARI &フェムテックin京都」に薬学部の学生が参加	【 薬学部 】 …………… 9P
日本盛を訪れ、「伝統 × 環境配慮」のものづくりを学んだ	【 環境共生学科 】 ……………10P
看護学部・看護学研究科の開設10周年の記念行事「多様性社会における生活者と看護」が、 公江記念講堂にて開催	【 看護学科 】 ……………10P
経営学科の授業で、宝塚市長が世界を巡った医師から政治家へのキャリアについて講演	【 経営学科 】 ……………11P
共通教育部主催「新しい自分発見イベント」で警察の仕事に触れる	【 共通教育部 】 ……………11P
ソフトバンクとの高大連携プロジェクト「生成AIを活用した社会課題解決・特殊詐欺防止」で、 高齢者を対象にした特殊詐欺防止イベントを明舞団地(神戸市・明石市)で開催	【 武庫川女子大学・本学附属高校 】 ……………12P
経済的困難下にあるひとり親世帯の女性に化粧品を届けるコスメバンクプロジェクトに本学の学生と 附属高校の生徒が参加	【 経営学科・本学附属高校 】 ……………13P
「健康科学連携教育フォーラム」が行われ、健康について学ぶ3学科の1年生が先輩の話に耳を傾けた。	【 健康・スポーツ科学科/食物栄養学科/健康生命科学科 】 ……………13P
三井ショッピングパーク ららぽーと甲子園にて、ワークショップ 「色が変わるふしぎなスライムを作ろう！」を開催	【 女性活躍総合研究所 】 ……………14P
オープンカレッジ主催「災害時に役立つ実践的知識」を多くの人が受講	【 オープンカレッジ 】 ……………14P
沖縄県観光人材マッチング事業「ゆんたく座談会」を開催	【 キャリアセンター 】 ……………15P
健康科学総合研究所が、若年女性の「やせ」リスクに関する研究のため、測定会を開催	【 健康科学総合研究所 】 ……………15P
韓南大学韓国伝統衣装展を開催	【 国際センター 】 ……………16P
「ミュージアムサロン」が行われ、「なまぶしの押し寿司」や「いかなごのくぎ煮」をテーマに 地域の生活文化が語り合われた	【 附属総合ミュージアム 】 ……………16P
中央図書館を活用して、兵庫県立鳴尾高等学校の授業が行われた	【 附属図書館 】 ……………17P
アスリートセミナー開催	【 スポーツセンター 】 ……………18P
ブラウンライスボランティア、恒例の稲刈り	【 学内公認団体等 】 ……………18P
武庫女ステーションキャンパス内のLavy's Caféで、認知症啓発イベント「まあいいかCafe2025」を開催	【 学院 】 ……………18P

スポーツの秋！武庫川女子大学スポーツフェスティバル2025を開催	【 学院 】 ……………19P
「鳴尾ふれあいイベント2025」開催	【 学院 】 ……………20P
第8回武庫女スマイルフェスを開催	【 学院 】 ……………20P
・ 沖縄県と就職支援協定を締結	
・ 甲子園エリアで、自動運転EVバスの実証実験開始	
・ トルコ・バフチェシヒル大学で、被災地アンタキヤの伝統的住宅建築の耐震改修設計を考える シンポジウムを本学と共同開催	……………21P
参考資料〈持続可能な開発目標（SDGs）の詳細〉	……………22P

-地域と大学を結ぶ- りえぞん No. 19

編集発行：武庫川女子大学 社会連携推進センター

充実する本学の地域連携活動

本学では、社会連携の活動が次第に数を増し、また継続的な活動も行われています。新しい活動の中には学部の垣根を越えた取り組みも見られます。その中の際立った活動の概要を以下に紹介します。

【日本語日本文学科】

日本語日本文学科の学生が各国若手外交官・公務員との日本語交流会を実施



1月5日(月)、日本語日本文学科で日本語教員養成課程関連の科目を履修する学生と、本学公認ボランティア「C1ub IE0」の学生合わせて25名が、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、中米の16か国の若手外交官・公務員をゲストに迎えて、本学にて日本語による交流会を行った。

各国若手外交官・公務員は、昨年10月に来日し、5月まで大阪府泉南郡の国際交流基金関西国際センターでの日本語研修に参加している。交流会ではグループに分かれて、まず外交官・公務員の出身国の紹介を聞いた。学生は平易な日本語や英語、ジェスチャーを交えて質問。またお互いにスマホの画像を使いながら、有名な食べものや観光地、好きな音楽など、さまざまな話題について交流した。

次に文化活動として、百人一首の絵札での「坊主めくり」ゲームや、福笑いや剣玉、駒回しなどの伝統的な遊び、ボードゲームなどを行った。書道では、各国外交官・公務員は、学生のサポートを受けながら、葉書や団扇に自分の名前や好きな漢字を小筆で書いた。

最後にナミビア出身のンダペワさんが、代表として、日本語と英語で感謝のスピーチを行った。笑顔の

あふれる、充実した交流会となった。

本学科では、国際交流基金関西国際センターで日本語研修に参加する各国外交官・公務員研修参加者を本学に迎え、毎年交流会を開催している。



グループに分かれて親交を深める



Brush writing に興味深々

【歴史文化学科】

「京都企業と学生との交流会」を開催



歴史文化学科1期生(現2回生)を対象に、キャリア支援の一環として「京都企業と学生との交流会」を、京都ジョブパークとの共催で10月～11月に開催した。本学科1期生は、来年度からいよいよゼミに所属し、また進路決定に向けた活動が本格化する。

「学科に就職活動を経験した先輩がいないため何をどこから手を付けたらいいのかが分からず何となく不安」「歴史文化の学びや経験が就職活動やその後の職業生活の中でどのように活かせるのか知りたい」といった学生たちの声を受けて、まずは社会人のイメージをつかんでもらえるよう、学科独自のキャリア支援として企画したもの。今回は、日本の伝統文化が根づく「京都」に本社のある企業8社にご協力いただいた。

当日は、仕事内容・業務内容はもちろん、インターンシップの重要性や採用との関係、日々の大まかなタイムスケジュールや充実感を持てる瞬間などについて、学生たちが少人数のグループに分かれてざっくばらんに企業担当者の方々に質問させていただいた。

担当者のなかには、本学OGもいて社会人の先輩としてだけでなく大学の先輩としても、さまざまなアドバイスをいただいた。今後も、大学のキャリア支援とあわせて、学科としても学生たちのキャリア支援に取り組んでいく。



8グループに分かれて説明を聞く



本学OGから経験に基づくアドバイスをもらう

【英語グローバル学科】

福井県英語教育視察に本学科の教員と学生・大学院生が参加



9月8日(月)、英語グローバル学科の田中教授と学部生2名、英語英米文学専攻の大学院生3名が、福井県での英語教育視察に参加した。福井県教育庁義務教育課ならびに坂井市、あわら市の教育委員会のご協力のもと、坂井市立丸岡中学校、あわら市伊井小学校、福井県庁を訪問し、英語の授業参観や教育行政に関する説明を受けるという、大変貴重な機会となった。

今回の視察では、福井県教育委員会から「授業名人」に任命された先生方の授業を参観することができた。参加者たちは、県を代表する先生方の実践を通じて、授業の工夫や指導の充実ぶりを実感した。授業では、英語使用の目的や必然性を高め、児童生徒の英語を使いたいという気持ちを自然に引き出し、高める工夫が随所に見られた。自分自身や身近な人、地域について英語で表現したい、さらに相手のことをもっと知りたいという気持ちが高まっていく様子を目の当たりにできたことは、参加者たちにとって大変心に残る経験となった。

また、授業後には先生方との懇談会が設けられ、授業のねらいや工夫について直接説明を聞く機会があった。授業で大切にされている視点などについて聞くことができ、参加者たちにとって学びを一層深める時間となった。

参加者たちからは、「英語教育の現場に触れ、自分の研究や将来の進路に役立つ示唆を得た」、「先生方が子どもの小さな声にも丁寧に耳を傾けていた姿が印象的だった」、「授業を通じて地域と学びが繋がっていることを強く感じた」との声が聞かれた。

なお、福井県と本学は就職支援協定を締結しており、今回の英語教育視察はその一環として実施された。参加者たちにとって、福井県の教育現場を知る貴重な機会となり、将来の進路選択や研究活動に役立つ学びとなるのである。

このような貴重な機会をご提供いただいた福井県大阪事務所、福井県教育庁、坂井市、あわら市の教育委員会、ならびに学校関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。



授業の様子をオンラインで体験しながら説明を聞く

【 教育学科 】

丹波市内の小学校で地域や児童の現場を繋ぐアートプロジェクト実施



教育学科の藤井(教授)ゼミ生 8 人が丹波市立新井小学校及び丹波市立進修小学校でアートプロジェクトを行った。

新井小学校では、「郵便ポストとシイタケをめぐるプロジェクト」として校庭にある古い郵便ポストを塗料やオブジェでシイタケに変身させ、その周囲に陶芸で焼き上げたシイタケやポストを設置した。あかつき山のシイタケ原木付近にも同様に陶芸を配置した。

進修小学校では、「進キャラ 88 創造プロジェクト」を実施した。子どもたちに丹波市や進修小学校のシンボルを考えてもらい、完成した作品を児童玄関の窓ガラスに貼りスタンドグラスのように仕上げる取り組みである。授業ではゼミ生が講師を務め、児童らは、約 20 cm 四方の用紙にカラーペンで地元の国領地区や丹波市からイメージした「三尾山」や「丹波栗」などをモチーフに、ゼミ生からの助言を受けながらイラストを描いた。アイデアが浮かばない児童に優しくアドバイスも。

学生は「子どもたちのユニークな発想に驚き想像以上にたくさん考えていることに気付いた。」「子どもたちは元気はつらつとしていてフレンドリーに話

しかけてくれ、楽しかった。教師を目指す身としてもっと頑張りたいと思えた。」と語った。

後日、作品をパソコンに取り込み透明のフィルムシートに転写。児童用玄関の窓ガラスに貼り完成させるという。



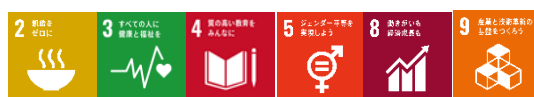
シイタケに変身させた郵便ポスト完成



地域のシンボルを題材にしたオリジナルキャラクターを作成中

【 心理学科 】

株式会社ロック・フィールド様での実習 心理学の学びをビジネスに活かす



心理学科の三年生が、株式会社ロック・フィールド(本社:神戸市東灘区)のご協力、神戸ヘッドオフィス・ファクトリーにて社会実践実習 II の実習を行なった。中食産業の実態とそれの礎となっている企業理念など、実際に働いている方々に直接お話をうかがうことで、大学での学びが職業生活にどのようなつながっていくかが鮮明にイメージできたと思われる。お惣菜の安全・安心や美味しさ・鮮度について、生販一体で、しかも誇りと使命感をもって取り組まれていることがよく理解できた。

ご案内いただいた人事部の皆様の温かいお人柄もあり、学外実習での緊張をほぐしていただいたおかげで、働く現場がどのようになっているのかについての貴重な知識を吸収することができた。また、就職活動全般についてのご助言やサポートがいただけたことも、学生たちのためになったと感じている。貴重な機会をいただくことができ、ほんとうに感謝している。



人事部の方から丁寧な説明を受ける



研修内容を基に学生同士で議論を深める

【 社会福祉学科 】

西宮スポーツイベントにて防災お菓子ポシェットを実施



お菓子ポシェットづくりは子どもたちがビニール製のポシェットにスナック菓子やラムネなどを詰め込み、子どもたちが「今欲しいと思っても我慢してすぐに食べない」「災害時に食べる」という約束を覚え、備蓄することを学ぶプログラム。災害を経験していない世代の子どもたちに、「備えること」の大切さを遊びを通じて分かりやすく伝えることを目的とし、阪神・淡路大震災から30年が経ったことを受けて「もしもの時に備える」ことの重要性を学ぶ機会を提供している。

今回は3年生が、ソーシャルワーク実習中ということで、9月7日(日)に1年生と2年生でイベントに参加した。

特に1年生は、初めての防災お菓子ポシェットのイベント参加だったため緊張していたが、元気な子どもたちを目の前にだんだん緊張もほぐれてきたよう。本学科のボランティア活動(MUKOconnect)は、阪神間の自治体から関心をもって受け入れられている。



作ったお菓子ポシェットを持った子ども達と一緒に写真撮影



お母さんと一緒に袋詰めを頑張る子供たち

【 健康・スポーツ科学科 】

豊永ゼミ・村越ゼミとダンス部が「第13回全日本小中学生ダンスコンクール」にボランティアで参加し、パフォーマンスを披露



8月10日(日)・11日(月)に神戸文化ホールにて開催された、第13回全日本小中学生ダンスコンクール西日本大会に、健康・スポーツ科学部 Dance Research LABO(豊永(講師)・村越(教授)ゼミ)およびダンス部がボランティアとして参加した。出場者の審査が行われる間に実施されるアトラクションで

パフォーマンスを行った。「アトラクション」では、豊永(講師)・村越(教授)ゼミ所属の学生がオリジナルのダンスを披露し、緊張をほぐすために会場全体を使って一緒にダンスを踊るコールアンドレスポンスなどを企画、実施。

アトラクションを取りまとめた田邊友菜さん(4年)は「会場全体がダンスでつながる空間を作ることができたと思います、参加者の皆さんから『楽しかった』とお声がけいただけただことが何よりうれしかったです」と感想を述べた。



オリジナルダンスを披露



Dance Research LABO のゼミ生およびダンス部

【 スポーツマネジメント学科 】

工藤ゼミ 3年生チームが「スポーツ政策学生会議 2025」で特別賞を受賞



神戸市、ノアインドアステージ株式会社(姫路市東山)と工藤(教授)ゼミで神戸市の小学生の居場所づくりに取り組むことを企画した「ええやん! スポーツできりひらく子ども未来」のテーマで、大木咲

季・奥野夏碧・河本茉奈・高野美佐子・小林未咲希・柴田桃佳のメンバーが「スポーツ政策学生会議 2025」で特別賞を受賞した。

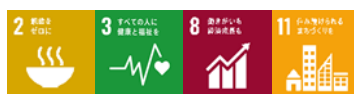
スポーツ政策学生会議(Sport Policy for Japan: SPJ)は、日本のスポーツ政策やスポーツ産業振興策について全国の大学生が研究成果を発表し議論する場として 2011 年に始まった。学生同士でスポーツ政策やスポーツビジネスについて議論し、スポーツマネジメントやスポーツ政策などの研究者とスポーツ関連の実務家による評価を受ける。今大会は、10月25日(土)、26日(日)の2日間、立教大学池袋キャンパスで開催され、全国の30を超える大学から計66チーム、約360名の学生が参加した。特別賞に輝いたメンバーは、「全国の同世代と意見交換する貴重な機会を得ることができ、さまざまな考えに触れる中で多くの刺激を受け、学びの多い時間となった。何度も話し合いを重ね、時間をかけて作り上げてきた成果が『特別賞』という形で評価され、とても嬉しく思います。年内には私たちが企画・提案したイベントを実施する予定で、イベントを実施する予定で、こうした経験を糧に社会に貢献できる社会人を目指して努力していきたいです」と語った。



スポーツ政策学生会議 2025 にて特別賞受賞

【 生活環境学科 】

「こども店長おもてなし市」を企画・運営。多田准教授ゼミが地域連携イベントを実施



11月1日(土)、生活環境学科・多田(准教授)ゼミに所属する3・4年生が、伊丹市・いな商店街で

地域連携イベント「こども店長おもてなし市」を企画・運営した。

このイベントは、いな商店街が主催する「ピクニックマルシェ」の一環として実施されたもの。

「ピクニックマルシェ」は、ショッピングセンターつかしん、稲野公園、いな商店街の3会場で同時開催され、「子ども店長」により地域全体の回遊を促すことを目的としている。

子どもたちが店長となり、自作のステッカーや手づくりアクセサリを販売。来場者は、他会場で獲得したイベント内通貨「イナポ」を使って買い物を楽しむことができた。

子どもたちの店舗は、ゼミでデザイン・製作した花形のテーブルを使用。商店街に2輪の“花”が咲き、その周囲は多くの子どもや大人でにぎわった。



ヘアゴムづくりの花形テーブル店舗



株式会社エムアンドエー様の協力を得てテーブルの準備

【 社会情報学科 】

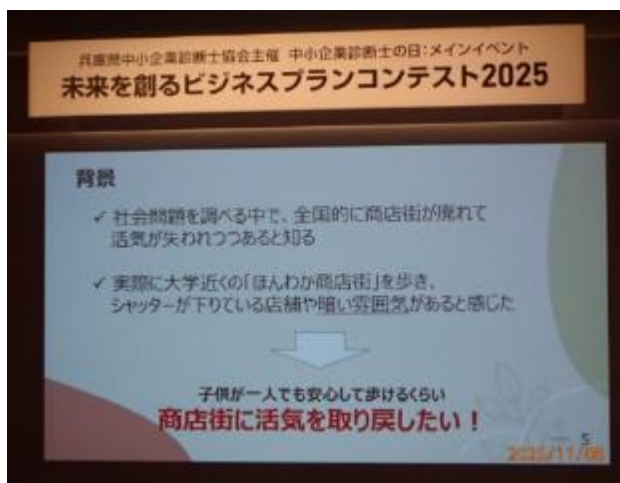
藤本ゼミが「未来を創るビジネスプランコンテスト 2025」で優秀賞を受賞



社会情報学科の藤本(教授)ゼミに所属する3年生が、11月8日(土)に神戸産業振興センターハーバー

ホール(神戸市)で開催された「未来を創るビジネスプランコンテスト 2025」(一般社団法人兵庫県中小企業診断士協会主催)で、優秀賞を受賞した。同コンテストは、県内の大学生を対象に独創的なビジネス・アイデアを競うもの。5名の学生は、予選通過後も3か月にわたり、中小企業診断士からの指導で自分たちのアイデアにブラッシュアップにかけた。

学生のアイデアは、「ほんわか段ボールアドベンチャー〜もつとにぎわえ!商店街大作戦〜」と題し、市場調査に基づき、商店街の空き店舗と廃棄段ボールを有効活用して、近隣の乳幼児と母親の出会いの場を実現するとともに商店街を活性化しようとするもので、みごと優秀賞に選ばれた。



商店街の活性化案のプレゼンテーション



聴衆になるべく具体的なイメージを持ってもらう

【 食物栄養学科 】

食物栄養学科の1年生が西宮市の廃棄物処理場・下水処理場で見学実習



食物栄養学科の全1年生が9月12(金)、13日(土)、西宮市の西部総合処理センター・甲子園浜浄化センターで見学実習を行った。管理栄養士の必須科目で

ある公衆衛生学実習の一環として、ごみ処理や下水処理の方法を理解するのが目的である。廃棄物処理場では、西宮市の燃えるゴミ、不燃物、ペットボトル、缶などがどのように処理されるかを学ぶ。

燃えるごみの場合、焼却された灰が埋め立てに使用され、缶は手選別で処理されたり、また、リサイクルできる家具や自転車などは西宮市民に無償提供されたりしている。またごみを燃やす際のエネルギーは、廃棄物処理場の運転に使用され、余ったエネルギーは電力会社へ販売されている。甲子園浜浄化センターでは、雨水処理、下水処理の詳細について、映像を使って説明を受けた後、好気性細菌を使った汚水の分解処理、最終的にきれいになった下水処理水がどのように川まで放流されるかの一連の過程を見学した。



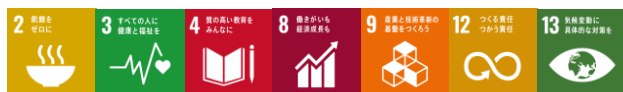
現場に赴いて施設の見学



職員から概要説明を受ける

【 食創造科学科 】

本学、関西スーパー、明治の産学連携コラボ
～学生考案レシピの試食配布で地域貢献と実践力強化～



本学、関西スーパーマーケット(伊丹市中央)、明治関西支社(大阪市中心部)の産学連携プロジェクトの一環として、食創造科学科4年の学生たちが、関西スーパー鳴尾店にて、明治の乳製品を活用したレシ

ピの試食配布を行った。この取り組みは今年で3年目を迎える。食産業に関する企業や研究の現場を見学・体験することで、学生の多様な職業・職種への理解を深め、キャリア意識の形成を促すことを主眼としている。また、産学連携を通じた実践力の習得と、市民の健康への貢献も重要な目的である。

今年度は、学生が考案した「さばカツサンド」、「チーズ in 煮込みハンバーグ」、「かぼちゃとカマンベールチーズのリゾット煮」、「さつまいもサラダ」、「鶏肉れんこんポテトのマスタードヨーグルト煮」、「秋香る、モッツァレラチーズペペロンチーノ」の6種類のオリジナルメニューを、10月24日(金)から6日間にわたり来店客に提供した。

この取り組みに参加した学生からは、「4月からレシピ考案を始め、提供までの道のりは試行錯誤の連続でしたが、大きな達成感を得られました」といった声や、「『レシピを作ってみるね』とお客様に直接言っていただけて、非常に嬉しかったです」と、地域の方々との交流を通じた喜びが聞かれた。



調理を実演してレシピを紹介する

【 建築学科 】

建築学部の学生・院生らが甲子園会館をライトアップし、約1,300人が来場



甲子園会館のライトアップイベントが11月29日(土)、上甲子園キャンパスで開催され、来場した約

1,300人が光に照らし出された歴史的建造物を楽しんだ。

今回のライトアップは、照明計画や投光器の設置に、大学院建築学研究科修士課程1年生が中心になり進められ、建築学部1年生の学生も加わった総勢120人がキャンパス内に幻想的な光と影の空間を演出。学生たちは授業の一環でライトアップ計画に取り組み、3次元データを用いたシミュレーションや、実際に投光器を壁・柱・軒裏・装飾部・庭園の樹木などに当てながら光の広がりや陰影の出方を丁寧に検証しながら準備を重ねていた。



甲子園会館全体を正面から



左側からの様子

【 景観建築学科 】

景観建築学科の学生有志が、花と緑に包まれた芦屋のまちづくりを伝える展示イベントをサポート



景観建築学科の学生有志が10月3日(金)、花と緑に包まれた庭園都市を目指す芦屋市の展示イベントで、PRに来場者を楽しませる工夫を凝らし、盛り上げた。参加したのは、いずれも4年の多田裕貴子さん、伊東美咲さん、大槻真夕さんの3名で市の事業である「芦屋オープンガーデン 2025」 「一家一花運動～玄関先に一花を～」のチラシ作

成を手がけたことが縁になった。会場には、実際のチラシのほか、学生が製作したジオラマも展示。フォーラム出席のため、偶然訪れた高島峻輔市長がジオラマに感心し、学生を質問攻めに。「アイデアをどうやって形にしていけるの?」といった質問に学生が応じる姿もあった。

会場となったルネサンスクラシックス芦屋ルナ・ホールでは、「芦屋オープンガーデン 2025」に参加した市民の庭園写真177点や「広報あしや Instagram OF THIS MONTH」に選ばれた写真20点、市内のこども園や保育所の園児が撮影した芦屋の魅力的な風景、西浜公園で開催されたイベントで子どもたちが作った地図が飾られた。学生は、これら4ブースを全て巡ってもらうため、スタンプラリー「花とみどりのブーケラリー」を企画。スタンプ台を設置し、色とりどりの花形スタンプを押して紙上で花束にするアイデアを考えた。

当日は、来場者にスタンプラリーの用紙と建築学科と景観建築学科のパンフレット、お土産となるドライフラワーを200セット用意した。訪れた人は、自然と芦屋市のまちづくり施策に触れながら、スタンプラリーを楽しんでいた。



来場者にドライフラワーのプレゼント



玄関先に一花のあるお家の模型

【音楽学部】

公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション様よりピアノをご寄贈いただいた



公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション様(京都市右京区)の「2025 年度ピアノ寄贈事業」は、演奏家を養成する全国の教育機関を対象に、老朽化したピアノを良質なものと入れ替えることで、学生たちが音楽を楽しみ、学ぶ環境を整え、音楽文化の普及と発展へと繋がることを期待された事業。本学は 2025 年度の寄贈先教育機関に選ばれ、Steinway & Sons D-274 1台、YAMAHA C3X 2台、YAMAHA C3TD 1台 をご寄贈いただいた。

11月21日(金)、Steinway & Sons D-247 が音楽館の演奏ホールに搬入され、高橋享子学長よりローム ミュージック ファンデーション事務局長の竹内善行様に感謝状を贈呈した。

竹内善行事務局長様に銘板を取り付けていただいたピアノは音楽学部の教育の充実と発展に不可欠なものとして大いに活用させて頂く。

なお、2026年3月には、YAMAHA の3台が搬入される予定。ご寄贈いただいたローム ミュージック ファンデーション様に深く感謝申し上げます。



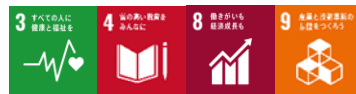
高橋享子学長より感謝状を贈呈



永く使わせていただきます

【薬学部】

「寺 CARE2025 OMOIYARI &フェムテック in 京都」に薬学部の学生が参加



11月9日(土)、世界遺産・京都 総本山仁和寺にて、多くの産学官が連携した「寺 CARE2025 OMOIYARI &フェムテック in 京都」に参加した。

池端特任教授が実行委員会代表を務め、大学・企業・行政をつなぐ役割を担った。当日は、薬学部皮膚科学研究室 仁木准教授の指導のもと、学生有志による「ハンドサロン」を実施。教室で学んだ知識が、誰かの心とからだをそっと癒す時間へとつながることを知り、学生にとっても大きな学びの経験に。池端特任教授は「大学での学びは、社会と出会うことで、より深く、立体的なものになります。寺 CARE は、学生が専門性とやさしさをもって社会と関わる第一歩となる場でありたい。そのような思いのもと、今後も取り組みを続けてまいります。」と語った。



「ハンドケア」コーナー



様々な香りを体験してもらう

【環境共生学科】

日本盛様を訪れ、「伝統 × 環境配慮」のものづくりを学んだ



環境共生学科1年生が12月5日(金)、社会連携プロジェクトⅠの授業で日本盛株式会社(西宮市用海町)を訪問した。日本盛は、日本酒づくりの長い伝統を大切にしながら、時代に合わせた工夫を重ねて生産活動を行っている企業である。

学生たちは洗米・蒸米・麴づくり・発酵・上槽・瓶詰めまでの製造工程を順に見学。麴菌や酵母の働き、温度管理や衛生管理の大切さなど、日本酒の品質を支えるコアとなるノウハウについて説明を受けた。また、排水処理や資源循環といった環境への配慮に加え、製造過程で生じる「米ぬか」を活用した化粧品開発の経緯についても話を聞くことができ、食品副産物を有効活用する取り組みから企業の創意工夫を学んだ。

見学中、学生や教員からの質問に対し、担当者から丁寧な説明をいただくことができた。特に酵母や麴菌の培養や特許についてなど企業秘密にもなり得るような専門的な質問もあり、普段の学びの成果が目に見える訪問となった。

環境共生学科では「今回の訪問を通じて、伝統と工夫が息づく日本酒製造の現場を体感するとともに、環境への配慮や社会とのつながりを重視した企業姿勢について多くの学びを得ることが出来た。」として、今後の社会連携プロジェクトにつながる課題発見に期待を寄せている。



工程別のプラントを実際に見学する

【看護学科】

看護学部・看護学研究科の開設10周年の記念行事「多様性社会における生活者と看護」が、公江記念講堂にて開催



これまでの卒業生・修了生数は、看護学部 558 人、看護学研究科修士課程 106 人、博士後期課程 26 人(2025 年 9 月 20 日現在)。患者さんの精神面や生活面にまで寄り添える「360° 看護力」を提唱し、確かな技術と豊かな人間性を備えた看護師や保健師を輩出している。講演会には看護学部在学学生・看護学研究科の院生、卒業生や一般の来場者 500 人以上が参加。

開会のあいさつで看護学部長・大学院看護学研究科長の寶田穂教授は「多様な社会の看護は答えの出るものではないが、皆さまと一緒に考えていきたい」とあいさつした。

第1部では大阪大学名誉教授で本学初代学部長・研究科長の阿曾洋子名誉教授が、看護学部開設時のエピソードや、看護科学館の各階の色彩のコンセプトを紹介。

第2部ではパネルディスカッションを行い、看護学部や看護学研究科の卒業生、看護学科の教員の5人がそれぞれの看護体験を語った。

閉会のあいさつで、看護学研究科専攻長本間裕子教授は「答えのない問いに対して、答えを考え、作っていく姿勢が専門職としては大切。そのために看護学科では教育に力を注いでいく。困っていることがあれば、大学院の学びで問いを見つける作業をしていただきたい」と総括した。



初代学部長と現学部長のご挨拶

【 経営学科 】

経営学科の授業で、宝塚市長が世界を巡った医師から政治家へのキャリアについて講演



経営学科 3 年の約 50 人を対象にした授業「キャリアデザイン特講Ⅱ」(井口教授)で 11 月 13 日(木)、宝塚市の森臨太郎市長が登壇した。森市長は、西宮市の出身。小児科医として新生児救急医療の最前線で活躍後、オーストラリア、ネパール、バングラデシュなど、世界各国でも勤務経験がある。

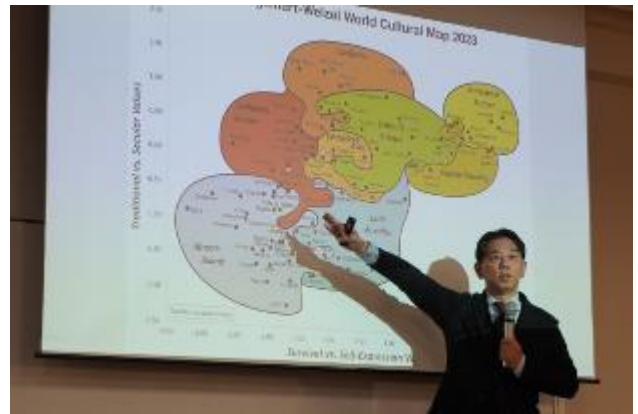
森市長は、医師として救命医療、障がい、格差、少子高齢化といった様々な社会課題に直面したことが、社会の仕組みへの関心を抱き、政治を志す原点となったと説明。その後、英国大学院での学位取得、英国政府機関や国連での勤務、100 カ国以上にわたる保健福祉政策アドバイザー等の豊富なキャリアを経て、宝塚市政に携わるまでの経緯を終了時間ぎりぎりまで熱意をもって学生たちに語りかけた。

学生からは、「ここまで充実した経験をされている方は初めて」「国境を越えて様々な問題に対し、自ら行動を起こして変えていこうとする姿に、胸が熱くなりました」といった声が寄せられた。世界各国での豊富な経験を基にした講演だけに、日本の現状を鑑みた声も。「出生率向上のために経済支援ばかりするのではなく、女性が子どもを産む・産まないに関わらず、自分らしく生きられるようサポートすることが大切」という感想も。

森市長の授業は、学生のキャリアデザインにも、大きな影響を与えたようだった。学生からは「私もみんなが平等で平和な世界になることを願って、何か力になれることがあるなら、動いていこうと感じました」「もっと自分のやりたいこと、ワクワクすることに素直になってたくさん挑戦したい」といった声があがった。



どんなタイミングで何人の子どもの産むべきかに聞き入る



見慣れない「世界文化地図」に基づいた講演

【 共通教育部 】

共通教育部主催「新しい自分発見イベント」で警察の仕事に触れる



「新しい自分発見イベント」が 12 月 2 日(火)、大阪府警察本部の警察官及び警察行政職員の方々を招いて開催された。

イベントには、学年や学科の枠を超えた 12 名が参加。当日は、警察官や警察行政職員の業務紹介のほか、警察官業務には腕力が第一に求められると考えがちなどころ、女性の働きやすさに配慮した職場環境についても説明があった。また、似顔絵捜査の体験や、実践的な護身術の指導もあり、学生たちはペアになって真剣かつ楽しそうに取り組んだ。

学生は、個別相談ブースに立ち寄り、採用試験やキャリアプランについて職員の方とマンツーマンで熱心に相談する姿も見られた。

本学 OG の警察官・警察行政職員も来校し、学生にとって警察の仕事をより身近に感じる貴重な機会にもなったようだ。



警察官や警察行政職員の業務紹介

【武庫川女子大学・本学付属高校】
ソフトバンクとの高大連携プロジェクト「生成AIを活用した社会課題解決・特殊詐欺防止」
で、高齢者を対象にした特殊詐欺防止イベント
を明舞団地(神戸市・明石市)で開催



本学は「オールドニュータウン」と呼ばれる明石舞子団地で11月12日(水)、明舞センター松が丘ビルの大会議室を会場に、経営学部の学生と附属高校の生徒計約50人が参加し、高齢者と交流を図った。

団地では、住民の高齢化や人口減少が進みつつあり、兵庫県などによる活性化に向けた取り組みが行われている。

プロジェクトは、民間企業(産)、大学(学)、行政機関(官)及び市民が一体となって、社会から詐欺被害をなくすための活動として兵庫県の後援事業として実施した。特殊詐欺防止イベントは、高齢者一人ひとりが、実際に発生している詐欺がどのようにアプローチしてくるかという実例、被害の深刻さを認識し、犯罪の被害者にならないように理解を深めるために開催された。

学生、生徒はソフトバンクや兵庫県の担当者から、「生成AIの活用方法」「プレゼン手法の習得」「高齢化社会のデジタルデバインド対策」「LINE詐欺ボットの取扱い方法」などの講義を受け、「特殊詐欺防止LINEボット体験会」に臨んだ。学生たちは明舞センター松が丘ビルやその周辺で、ビラ配りをしながら高齢者に声をかけ、体験会の趣旨などを熱心に説明しながら会場に案内し、相談員として対応した。

ソフトバンクのプロジェクトを担当者は、「自分たちのような社会人よりは大学生や高校生のほうが身構えずに相談しやすいのではないかと考えている。プロジェクトで学んだ知識を生かし、学生の皆さんが詐欺被害の防止に貢献してくれることを期待しています。」と語った。

参加した学生は体験会の後、ソフトバンクから「スマホ活用支援員養成講習」の認定証を受けました。学生の一人は「高齢者の方に『武庫女です』と声をかけると、『学生さん』と返答があり、相手に安心感を与えているようです。異世代との交流が体験できました」と話っていた。

プロジェクトを進める経営学部の谷口助教は「特殊詐欺の問題は、財産を奪われるだけでなく、人への信頼まで失わせてしまう、極めて深刻な被害をもたらします。社会として必ず根絶しなければならない課題です。いま、その解決に向けて、生成AIの活用に挑戦しているのが本学の高校生や大学生です。ソフトバンクのレクチャーを受け、自治体や警察のみなさんと協働しながら、『もう二度と被害者を出さない』という強い思いを持って取り組む学生たちは、生成AIの良い面を最大限に生かし、倫理的に正しく使いこなしてくれると確信しています」と語った。



「スマホ活用支援員養成講習」の認定証を受けとる学生



「特殊詐欺防止LINEボット体験会」相談員として対応する学生

【 経営学科・本学付属高校 】

経済的困難下にあるひとり親世帯の女性に化粧品を届けるコスメバンクプロジェクトに本学の学生と附属高校の生徒が参加



「化粧品で、心にうるおいや彩りを」。経済的困難下にあるひとり親世帯の女性に化粧品を届けるコスメバンクプロジェクトに本学経営学部の学生と附属高校の生徒が参加。12月5日(金)、プロジェクト参画企業の株式会社コーセー(以下、コーセー)の社員とともに化粧品と日用品(計9種類)を一つひとつ袋詰めにし、メッセージを添えて計1995セットを各家庭に送った。

コスメバンクプロジェクトは一般社団法人バンクフォースマイルズ(東京都港区)が「女性と地球にスマイルを」をスローガンに2021年に立ち上げた活動。コーセーなどプロジェクトの参画企業から余剰の化粧品や日用品などを募り、全国の支援協力団体を通じて、経済的困難下にあるひとり親世帯に無償で提供をするもの。

本学公江記念館でおこなわれたコスメバンクプロジェクトの梱包作業では、学生・生徒はチームに分かれ、それぞれ、化粧品や日用品が入った段ボール箱を運び、一つひとつ袋詰めにし、学生が考えた「ときめきあふれる毎日を」「あなたの1日がステキな1日でありますように」というクリスマスメッセージを添えてギフトセットを仕上げた。完成したギフトセットは社会福祉法人などプロジェクトの支援協力団体を通じて各家庭に届けられる。本学と附属高校は昨年からの取り組みに参加しています。

プロジェクトでは、コーセー経営企画部サステナビリティ戦略室の山下牧子さんと坂本エレナさんが、昨年にギフトを受取った女性からの声を紹介した。「コスメバンクから素敵なコスメが届くと、自分がかつてお化粧品やおしゃれが好きだったことを思い出します。そして、いただいたリップを塗ったとき、心が弾みました。生活に明るさや彩りをありがとうございます」「このギフトが届くと、ひとり親

だけど、綺麗にしないと！綺麗を諦めてはいけません！という気持ちになります」

学生たちは「喜んでもらえてうれしかった。化粧品を詰めるだけで支援になっている。いい体験ができた」、「物価高でひとり親世帯では、自分の美の優先順も下がる。そういう人たちにコスメを届けることに共感し、そのボランティアの一員になれたことがうれしい。化粧品で元気が出る。そんな思いが届いたらうれしい」と話していました。



袋詰め作業中の学生・生徒たち



それぞれのメッセージ付けたコスメセットの出来上がり

学部横断事業

「健康科学連携教育フォーラム」が行われ、健康について学ぶ3学科の1年生が先輩の話に耳を傾けた。



2025年度の「健康科学連携教育フォーラム」が9月16日(水)健康科学の分野で活躍する各学科の卒業生3名を招いて、公江記念講堂で開催された。

本学では、「健康」を専門とする3学科がカリキュラム面で連携する「3学部3学科連携教育プログラム」を実施し、健康についての幅広い知識を習得したスペシャリストを養成している。

ディスカッションパートでは、他分野との連携の重要性、課外活動の経験が、現在どのように活かされているかなどについて、3人が改めて自らの経験をもとに話をした。



実社会で活躍する各学科のOGスピーカー

【女性活躍総合研究所】

三井ショッピングパーク ららぽーと甲子園にて、ワークショップ「色が変わるふしぎなスライムを作ろう！」を開催



8月7日(木)、三井ショッピングパーク ららぽーと甲子園(本学連携協定締結先)にて、親子ワークショップ「色が変わるふしぎなスライムを作ろう！」を開催。

このイベントは、女性活躍総合研究所が主催し、理系分野をめざす子供の皆さんを応援するために設立された「MUKOJO ミライ☆ラボ」の活動である。

次世代女性人材育成部門の仁木准教授が薬学部皮膚生理学研究室の学生と共に参加した。訪れた皆さんは、学生から紫外線の体への影響や太陽の光で色が変わるふしぎなスライム作りの説明を聞いた後、当てられた光で色がさまざまに変化する物質を実際に手に取って触れてみたり間近で変化の様子を見てから作業に入った。当日は4回の開催すべてが親子連れで満員となり、保護者の皆様にもお楽しみいただき会場は熱気に包まれた。



スライムで遊ぶ時の注意点をわかりやすく説明



スライムに興味津々の子ども達と一緒に

【オープンカレッジ】

オープンカレッジ主催「災害時に役立つ実践的知識」を多くの人が受講



オープンカレッジ生活文化コース「防災と災害を考える-災害時に役立つ実践的知識-」が10月23日(木)、西宮北口キャンパス(西宮北口駅徒歩5分)で開講された。

この講座はワンコイン講座として毎週開講(講師：大坪明社会連携推進センター特任教授)しているが、今回は、「西宮市防災リーダーの会」のお二人を講師に招き、一日だけの特別開講となった。学院教職員に参加を募り、実践的な知識を得たいと多くの人が受講した。講座は80分間、前後半でテーマを分けて開講。前半は座学で、西宮市に特化した防災情報をもとに、実際の地名や地形に沿ってクイズ形式で災害時の知識をより実践的に学んだ。

後半では災害時、毛布だけで簡易担架を作りけが人を運ぶ方法や、動けなくなった人を一人で効率的に移動させる方法を学んだ。

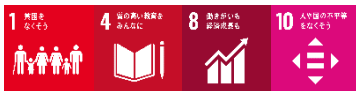
また、新聞紙を使い、参加者の足にジャストフィットする簡易スリッパを作る実習も行った。従来一般的に広く知られているのは、画一的なサイズで実際のところでは不便な面も多かったため、参加者に「これは自分の足にピッタリで使い勝手がよさそうだ」と好評だった。他にも様々な種類の簡易トイレや、断水時の水の備蓄方法、100均等で手に入る防災グッズなど、今すぐ役に立つ知識が紹介された。



毛布で人を運んだり新聞紙でピッタリサイズのスリッパを作製

【 キャリアセンター 】

沖縄県観光人材マッチング事業「ゆんたく座談会」を開催



キャリアセンターで12月11日(木)、沖縄県文化スポーツ部観光振興課主催の「ゆんたく座談会」が開催された。本学では、2020年から沖縄県那覇市に学外入学試験会場を設けており、キャリアセンターも沖縄県内企業との連携に力を入れている。

「ゆんたく」とは沖縄の方言で、「おしゃべり」の意。学生はスーツではなく普段着で参加し、沖縄特産の「さんびん茶」と「ちんすこう」を頂きながら、出展企業の担当者と「ゆんたく」を楽しんだ。

冒頭、沖縄県観光振興課の親富祖課長が「沖縄県の観光企業の情報を得て、ひとりでも多く沖縄の観光に携わってほしい。しっかり情報を得てください」と挨拶。ゆったりとした雰囲気の中、各々学生は参加企業5社に向かい、志望する企業の人事担当者と同じく話をしていった。

こうした取り組みと併せ、沖縄県では、「観光人材マッチング支援事業」を通じて、就職後のミスマッチ解消と人材定着を目的とした、沖縄県内の観光業界へのインターンシップ希望者に対し渡航費等の支援や、雇用政策課が実施する就職活動全般を対象とする「ちゅらっとターン」補助金など、沖縄県外在住者でも活用できる支援が実施されている。



笑顔のある打ち解けた雰囲気の中で就職相談

【 健康科学総合研究所 】

健康科学総合研究所が、若年女性の「やせ」リスクに関する研究のため、測定会を開催



健康科学総合研究所では、7月28日(月)、8月4日(月)、8月5日(火)の3日間にわたり、「若年女性の食習慣と健康障害との関係や出生時体重との関連性に関する研究」の測定会を行った。本研究は、近年問題となっている若年女性の「やせ」に着目し、食・生活習慣と将来的な骨粗しょう症や糖尿病、低出生体重児出産のリスクとの関連を明らかにすることを目的としている。

昨年度は、体組成・骨密度の測定、血液検査を実施し、食習慣・運動習慣に関するアンケート調査から摂取・消費エネルギー量などを推算した。今年度はこれらに加えて、昨年冬期から始めた皮膚状態に関する測定(水分量、皮脂量、タンパク質変性の糖化など)も実施した。肌の状態は、摂取栄養や日々の生活習慣を反映する重要な指標と考えている。

今回は、研究所の呼びかけにこたえ、13学科43名の学生が研究に参加。研究所では、研究結果を分析し、具体的な生活習慣や特定の栄養素の過不足と健康障害との関連を明らかにし、学生の段階から健

康改善に取り組めるようなプログラムの構築を目指している。将来、心身ともに健康な社会人や母親が増える社会に貢献できるよう、今後も研究を進めていくことにしている。



体組成・骨密度の測定



昨年冬期から始めた皮膚状態に関する測定

【国際センター】

韓南大学韓国伝統衣装展を開催



国際センター主催、生活環境学部共催、附属総合ミュージアム協賛展示で、「韓南大学 韓国伝統衣装展」が10月28日(火)、29日(水)の2日間にわたり、公江記念館にて開催された。

本展示では、韓国のほぼ中央にある大田市(テジョン市)の本学の協定校である韓南(ハンナム)大学のファッションデザイン学科の教員及び研究生が制作した華やかな韓服と、本学附属総合ミュージアムが所蔵する歴史ある着物や半襟を同時に展示した。展示された韓服は、伝統的な形式のものから、現代的な感性でアレンジされたデザインまで多岐にわた

り、来場者は韓服の歴史を感じさせる多様な魅力に触れることができた。また、韓国の伝統美である色彩豊かな韓服と日本の着物のコントラストを通じて、両国の伝統衣装文化の深さに触れることのできる貴重な機会となった。

最終日の29日(水)には、文化交流をさらに深めるための関連イベントが実施された。展示品と製作者を紹介する歓迎セレモニーが行われた後、参加者同士の親睦を深める交流会が開催された。午後のセミナーでは、韓南大学の教員より韓服の歴史と韓国の伝統的な巾着についての講義があった。続いて伝統的な巾着を実際に作成するワークショップが開催され、参加者は実際に巾着作りの作業に熱心に取り組んだ。



色鮮やかな韓服



ワークショップで伝統的な巾着を実際に作成する

【附属総合ミュージアム】

「ミュージアムサロン」が行われ、「なまぶしの押し寿司」や「いかなごのくぎ煮」をテーマに地域の生活文化が語り合われた



附属総合ミュージアムで11月28日(金)、地域の人から生活文化を聞き取る「ミュージアムサロン」

が行われた。今回のテーマは「食べ物」。「いかなごのくぎ煮となまぶしの押し寿司」を題材に地域の人語り合った。聞き取り役として学生(建築学部)2人、大学院生2人(生活環境学研究科、建築学研究科)が参加し、教員と手分けして記録を取った。

「いかなごのくぎ煮」は鳴尾でも長年、親しまれた郷土料理だが、最近はいかなごの不漁が続き、多くの家庭で受け継がれてきたくぎ煮づくりや、出来上がったくぎ煮を分け合う文化が途切れないか、心配されている。参加者からも「前は作っていたけど、今はいかなごは高くて手が出ない」などの声が上がっていた。一方、鳴尾地域では「なまぶしの押し寿司」を作り、分け合う文化があることが、複数の人の証言から明らかになってきた。なまぶしを甘辛く炊いてそばろにし、すし飯に混ぜたもので、祭りなどで人が集まるときにふるまわれたようだ。

こうした証言や記憶をもとに、甲子園口にある寿司店「さね松」が、なまぶしの押し寿司を再現。この日のサロンでふるまわれた。

参加者たちは錦糸卵などで美しく彩られた「なまぶしの押し寿司」を食べながら、「食べ物を分け合う中で、レシピが共有されたのでは」「昔は人が集まるときはたくさんお米を炊いた」など、思い出を語り合っていた。建築学部の学生は「兵庫の出身だけどなまぶしの押し寿司は知らなかった。地域によって違いがあるんですね」と話した。



郷土料理の思い出を語り合う

【 附属図書館 】 中央図書館を活用して、兵庫県立鳴尾高等学校 の授業が行われた



兵庫県立鳴尾高等学校の総合人間類型の授業が、9月30日(火)午後、中央図書館で行われた。「総合人間Ⅱ・Ⅲ」で取り組む「課題研究」の事前活動として、参考書籍の検索や資料収集を行うのが目的の授業。

2階グローバル・スタジオに集合した高校2年生40人は、はじめに図書館スタッフから蔵書検索の方法や、資料の探し方、書架にある本の並び方などの説明を受け、その後、パソコンで蔵書検索を実際に行ったり、各フロアの書架で関心あるテーマの本を選んだりした。集めた本を読んだりメモを取ったりして、今後の課題研究テーマの設定に向けて情報収集を行った。



大きなスクリーンで説明を受ける鳴尾高校生



資料の検索方法を教えてもらう

【 スポーツセンター 】

アスリートセミナー開催



スポーツセンター主催の「アスリートセミナー」が2月16日(月)、公江記念館地下1階大講義室で開催され、本学強化クラブの学生(10クラブ190人)と教職員約220人が聴講した。

アスリートセミナーは学生アスリート支援の一環として毎年開催。今年度は元バレーボール日本代表江畑幸子さんをゲストに招き、本学バレーボール部の坂下麻衣子コーチとのトークショー「挑戦を続ける力～バレーボールが教えてくれたこと～」を実施。また、ミラノ・コルティナオリンピックに出場している大学院健康・スポーツ科学研究科の藤木日菜さんの健闘をたたえ、藤木さんが所属する競技スキー部部長の渡邊昌史教授が講演。「まだ見ぬ景色を見るために」と題し、教え子である藤木さんのオリンピックでの活躍やこれまでの道のりを紹介した。

この後、兵庫県警薬物銃器対策課から、薬物乱用防止についての講演があり、学生たちはパンフレットを見ながら熱心に聞き入った。



江畑元日本代表(左)と坂下本学コーチ(右)

【 学内公認団体等 】

ブラウンライスボランティア、恒例の稲刈り



9月14日(日)、今年も恒例の稲刈りに。丹波市青垣の田んぼに5月に植えた苗が、黄金色の稲とな

り、それを釜で刈り取り、稲架掛けにした。田んぼの中は、前日の雨の影響で、泥沼状態。歩くのも大変で湿度が99%という過酷な状況ではあったが貴重な体験をすると共に、お米のありがたさを痛感した日となった。

刈り取った稲は「ミルキークイーン」文化祭でも販売し、その売り上げを国連WFP「学校給食プログラム」に寄付。

NHK リブラブひょうご「学食ウィーク」の取材で、ブラウンライスウィーク活動がとりあげられることとなった。取材の後、NHKのスタッフの方々もENSEMBLEのブラウンライスメニュー「野菜たっぷりタッカルビ丼」を食べられ、玄米か白米かわからない位の柔らかさで、少しだけ食物繊維を感じ、非常に美味しいと絶賛いただいた。



稲刈りお疲れ様でした



NHK リブラブひょうご「学食ウィーク」の取材を受ける

【 学院 】

武庫女ステーションキャンパス内のLavy's Caféで、認知症啓発イベント「まあいいかCafe2025」を開催



世界アルツハイマーデーの9月21日(日)、「まあいいかCafe2025(開催第6回目)」を開催Lavy's Caféを運営する不動産会社「株式会社ライフイノ

バージョン」が2022年から取り組む社会貢献活動の一環で、「まあいいかLabo きょうと」の平井代表によるプロデュースのもと開かれている。今年は、世界アルツハイマーデーに『注文をまちがえる料理店』の趣旨に賛同する34団体が全国一斉開催。本学も「まあいいかCafeなるお実行委員会」のメンバーとして参加。「まあいいかCafe」は、認知症の方が店員となり、注文を取って、席へと運ぶ。この日は、85歳から99歳までの女性5人が参加。看護学部をはじめ、建築学部、教育学部、心理・社会福祉学部、経営学部の学生計15人も、介護施設のスタッフと一緒にサポート。間違いがあっても受けられる心の広さを持ち、「まあいいか」の精神で向き合う。人と人が触れ合い、ゆったりと温かい交流の時間を過ごすことが、カフェの由来と目的である。

5人は、揃いのエプロンに身を包んで、お客さんを迎え、「こんなの、お茶の子さいさいやわ」と頼もしい一言も。「働くことが楽しい。学生さんも一緒についてくれますしね。」と喜ぶ。看護学部の徳重教授（老年看護学）は、「地域で暮らす認知症を抱える高齢者の方と大学生が接することは、ほとんどないため、授業以外で学ぶことのできる貴重な機会。学生達にとっては、一生の宝物となる経験」と語る。学生からは「オーダーを紙に取る字も綺麗で、注文を間違われることも一切なかった。一緒に働くことで、認知症へのイメージが変わりました。」と語った。来店した男性は、「多少時間がかかってもお客さんもそれに向き合う。効率化を求める社会が、いかに認知症ケアにそぐわないのかを感じた。この考えが広まれば、介護する家族で救われる方は多いのではないかと問う。女性の家族は、「人と関わることが好きな母が生き生きと働く姿を見ることができてよかったです。」とほほ笑んだ。



丁寧に注文を取る



お運びもスムーズに

スポーツの秋！武庫川女子大学スポーツフェスティバル 2025 を開催



「武庫川女子大学スポーツフェスティバル 2025 ～大学スポーツの力で地域の人々を元気に～」(UNIVAS 共催、日本郵政協賛)が10月18日(土)、本学で初めて開催され、親子連れ20組40人が参加。開会式には、Tシャツ姿のLavyも登場し、子どもたちの人気を集めた。日本郵政が推進する「MEKIMEKI体操」で体を温めた後、3チームに分かれ、本学施設を活用したエアリアルヨガ、テコンドー、トランポリン、水泳を体験した。エアリアルヨガは、天井からぶら下がった布を使ったヨガ。子どもたちがブランコのようにして遊んだり、宙ぶらりんになったりして楽しんだ。親子ともに大人気だったのがトランポリン。跳んだり、跳ねたり、しりもちをついてもみんな笑顔に。テコンドーでは、かかと落としや後ろ蹴りといった技を習い、親子での対戦では子どもたちが習ったばかりの蹴りをマスターしていた。プールを使った「水中運動会」では、水中を競走し、ビート板を取り合うゲームに歓声が上がり、親子の絆を深めていた。

最後は、食物栄養学科の小林准教授による栄養学講座があった。食べ物には、「体をつくる」「エネルギーのもとになる」「体の調子を整える」ものがあると説明。10種の野菜が緑黄色野菜と淡色野菜のどちらに属するかを当てるクイズにも挑戦し、それぞれの野菜が持つ働きを学んだ。小学校高学年の子どもが1日に必要な野菜の摂取量は、300グラムと言われてお

り、小林准教授は「子どもの両手にのる量がだいたい300グラム。汁物にすると野菜の栄養素を失なわないのでおすすめです」と語った。



日本郵政が推進する「MEKIMEKI 体操」と Lavy



初めてのエアリアルヨガを楽しむ小学生

「鳴尾ふれあいイベント 2025」開催



「武庫女ステーションキャンパス (MSC)」の竣工に併せて設立した「鳴尾エリアマネジメント連絡会」(本学、阪神電気鉄道株式会社、株式会社阪神ステーションネット、みなと銀行鳴尾支店、ライフ阪神鳴尾支店、Lavy's Café) が主催のイベントが、今年も10月26日(日)に開催された。学生実行委員会(43人)と連絡会メンバー(15人)の約3ヶ月かけた企画は無事実施することが出来た。イベントは、「ハロウィン☆フェス」(ハロウィンらしさ満載! 音楽と仮装で子どもから大人まで一緒に楽しめるワクワクフェス)、「わくわくまちぼうけん!! in なるお」(AR拡張現実を取り入れたまちあるき。スマホ一つでキャラクターと写真を撮ったり、おみくじを引いたりして楽しんだ。「先取りハロウィンお楽しみ会」(ミニゲームやフォトスポットに参加して、景品をゲット。鳴尾北老人会の皆さんとの共同企画)の3つから構成。総来

場者数は約1,200人の人で賑わった。



音楽と仮装で楽しんだ「ハロウィン☆フェス」



ミニゲームいっぱいの「先取りハロウィンお楽しみ会」

第8回武庫女スマイルフェスを開催



「武庫女スマイルフェス」が2月14日(土)、15日(日)、「三井ショッピングパーク ららぽーと甲子園」で開催された。武庫女スマイルフェスは、学生たちの日ごろの取り組みや学びの成果を地域の人に紹介し、ワークショップ等で交流することを目的に2019年から毎年行っている。

8回目となる今年はゼミや学部、ボランティア、リカレント教育センターなど12団体がブースを構え、趣向を凝らしたイベントを行う。2日間で延べ約280人の教員、学生が参加した。

社会情報学科2年平井(准教授)ゼミでは、「和紙を使ったランプシェード作り」を実施。兵庫県の伝統工芸品の和紙を風船に貼り付け、乾かしてから風船を取り除くと和紙のランプシェードが完成。参加者は思い思いに和紙を貼り付け、出来上がったシェードをスマホの灯りで照らして、和紙の柔らかな光を楽しんでいた。

“リケジョ”を応援する MUKOJO ミライ☆ラボからは社会情報学科和泉(准教授)ゼミが参加。偏光板を

使ったキーホルダーやスライムを作るワークショップを行った。偏光板にセロハンテープを貼ると光の向きが色になってカラフルに見える性質を利用。「のびーる!!スライム」は洗たくノリとホウ砂水を混ぜ合わせて作ります。科学実験のようなワークショップは子どもたちに大人気で、開始直後から親子連れでにぎわった。

環境共生学科では、顕微鏡で微細な生物を観察したり、身近な薬剤を合わせて化学反応で色の変化を見たり。小学1年の子どもと参加した女性は「子どもが実験が大好きなので参加しました。貴重な経験ができてよかったです」と話していた。

生活環境学科の池田(講師)ゼミでは、学生たちが6ブランドの約40着を使って、参加者同士がコーデを提案しあうイベントを開催。二人の子どもを連れて参加した女性は、ブルーのワンピースやスカーフ、メガネなどでイメージチェンジ。「小学1年の娘がコーデを考えてくれました。いつもと違う雰囲気になってよかった」と話していた。

学生広報スタッフはドライフラワーに香りをつけて布袋に包む「オリジナルアロマサシェ作り」を実施。ほかに文学部・保険実務講座、リカレント教育MUKOnoa+、ブラウンライスボランティアもそれぞれの取り組みを紹介。

スマイルフェス2日目は健康・スポーツ科学科中堀(准教授)ゼミによる「スポーツウェアのふしぎを楽しもう」や、教育学科楠山(准教授)ゼミの「手作りブレスレット&キーホルダー作り」が加わった。



親子で「和紙を使ったランプシェード作り」を楽しむ

沖縄県と就職支援協定を締結

本学は1月26日(月)、沖縄県庁で、沖縄県と就職支援協定を締結した。

甲子園エリアで、自動運転EVバスの実証実験開始。

本学は、実証実験に協賛しており、車体に本学の記章と大学名、車内にもポスターを掲出している。

トルコ・バフチェシヒル大学で、被災地アンタキヤの伝統的住宅建築の耐震改修設計を考えるシンポジウムを本学と共同開催

トルコの歴史都市・アンタキヤの町並み復興に取り組んでいる本学建築学部が11月5日(水)、トルコ・バフチェシヒル大学で文化庁主催シンポジウム「文化遺産を守る耐震改修—アンタキヤの伝統的住宅建築の設計提案—」を同大学と共同で開催。

◆
◆
本稿の記事は本学 WEB サイトの NEWS 及び学科オリジナル HP をもとに作成しています。写真はすべて本学 WEB サイト掲載済のものです。

ご意見・ご質問等は、本館5階 社会連携推進課まで
担当：成田・安藤(6214)

E-mail: shakai@mukogaw

持続可能な開発目標 (SDGs) の詳細

国際連合広報センターHP より引用

https://www.un.org/ja/activities/economic_social_development/sustainable_development/sustainable_development_goals/



1 貧困をなくそう
あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる



2 飢餓をゼロに
飢餓を終わらせ、食糧安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する



3 すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



4 質の高い教育をみんなに
すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し生涯学習の機会を促進する



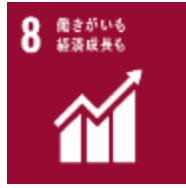
5 ジェンダー平等を実現しよう
ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行う



12 つくる責任 つかう責任
すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する



7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する



8 働きがいも経済成長も
包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する



9 産業と技術革新の基盤をつくろう
強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る



10 人や国の不平等をなくそう
各国内および各国間の不平等を是正する



11 住み続けられるまちづくりを
包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市および人間居住を実現する



12 つくる責任 つかう責任
持続可能な生産消費形態を確保する



13 気候変動に具体的な対策を
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる



14 海の豊かさを守ろう
持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する



15 陸の豊かさを守ろう
陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する。



16 平和と公正をすべての人に
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する



17 パートナリシップで目標を達成しよう
持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する